飯豊連峰縦走報告（平成 28 年 7 月 29 日（金）－8 月 3 日（水）

飯豊山（いいでさん）は福島、新潟、山形の 3 県にまたがる大きな山脈である。標高こそ 2,000m程度であるが、その規模の大きさから「東北のアルプス」とも呼ばれている。雄大な山並みを眺めながらの縦走とお花畑を求めて、以前から行きたいと思っていた。ところがこの山域には避難小屋しかなく、寝具と食料を担いでの長旅はきついのでためらっていた。そんなことを言っていると体力がますますなくなってくるので、今回思い切って実行に移すことにした。梅雨明けの良い天気を狙っていたところ、今年は梅雨明けが遅くてやきもきしたが、ようやく梅雨明け宣言が出たので勇躍出発したのであった。

29 日（金）は午前中に東京を出て喜多方のビジネスホテルに宿を取った。蔵の街をぶらつき、喜多方ラーメンを食べて過ごしたが、良く晴れて暑い日であった。

30 日（土）、5 時ごろ起床してコンビニでオニギリを調達し、7 時 11 分の列車に乗った。7 時 51 分に野沢駅に着くと、予約していたタクシーが待っていた。約 1 時間走って、8 時 50 分に弥平四郎登山口に到着（￥9,540）。10 台位の車があったが、運転手の話では少ないとのことであった。準備をして 9 時丁度に出発、今回は 4 泊なので荷物が 14ｋｇと少々重い。自家用車で来た人はすでに登り出しているようで、誰もいない登山道を歩き出した。

一旦下って沢を渡り 15 分くらいで祓川山荘（無人の避難小屋）を通過し、本格的な山道に入った。このあたりは山が深いせいか植林は全くなく、広葉樹の自然林の斜面をひたすら登る。朝のうちは青空だったが、山に入ると雲が多くなってきた。道は明瞭ではあるが、木の根っこや岩などがあり歩きやすいとは言えない。見晴らしの良くない樹林帯を黙々と登っていると 10 時 30 分ごろ雨が降って来た。最初は広葉樹の下なので雨具はいらないかと思っていたら土砂降りになって来た。たたきつけるような豪雨で、雨具を上下着用していても靴やズボンが濡れてくる。不幸中の幸いで雷が鳴らないのが救いであるが、いつ鳴り出してもおかしくないので早く小屋に着きたいとピッチが上がる。

11 時 30 分ごろ松平峠と思われる尾根にやっと登り着いた。風でガスが途切れると、隣の尾根の斜面を流れる沢から大量の雨水が滝のようにゴウゴウと音を立てて流れ下っている。ここからは岩場のある痩せ尾根となり、風も強いので注意しながら登る。そのうちに単独行の人が降りてきた、今日初めて会う人である。その後下って来る人には数人出会ったが、追い越していく人はいなかった。何とか頑張って 12 時 55 分に疣岩山の分岐にたどり着いた。ここからは稜線上をゆるいアップダウンで小屋まで行くことができる。水だらけではあるが歩きやすい道を歩いているうちに雨が上がって来た。はるか大日岳方面の稜線を望みながらいくつかピークを越えて、14 時に三国岳山頂にある三国小屋に到着した。

この小屋は避難小屋ではあるが管理人がいるので先ずは受付をしなければならない。管理協力金 2,000 円を支払い、さらにペットボトルの水 500CC を 500 円で購入した。一応水

場はあるのだが危険な場所らしいので無理をする必要はない。3 リットル背負ってきたがすでに 2 リットルを消費しているので念のため確保した。2 階に案内されると思ったより人が多いのは、今日の大雨（大雨警報が出ていた）で予定を変更した人が多かったらしい。ほとんどの人が 1 泊か 2 泊の予定で来ているようで、4 泊で縦走しようというのは私くらいのようだ。小屋番からも「あなたくらい余裕をもって縦走してくれると飯豊を楽しめる」と言われた。困ったのは乾燥室が無いことで、びしょ濡れの靴や靴下、ズボンなどを紐につるすことしかできない。ともかくも荷物を整理して外に出てみると、雨はすっかり上がり飯豊本峰や大日岳が遠くに見えていたので明日が楽しみになった。

31 日（日）、山小屋の朝は早く、4 時前から出発の準備をする人で騒がしい。起こされてしまったので外に出てみると今日は良い天気である。さわやかな空気を吸いながら周りの景色を見ていると、4 時 40 分ごろ蔵王連峰から朝日が顔を出した。日の出を見てから食事をし、5 時 50 分に出発するころにはほとんどの人は出かけてしまっていた。つらかったのは昨日の雨で濡れて湿ったズボンや靴下を履くときで、何とも言えない不快感が残ったが、歩き出すとすぐに体になじんで気にならなくなってきた。

小屋を出ると先ずは痩せ尾根を一旦下り、その後徐々に登っていく。一部岩場やハシゴもあるがそれほど危険な道ではない。やがて道は広い尾根道となり、7 時 20 分に切合小屋に着いた。本山小屋方面から下って来る人も多く、小屋の付近では多くの人が休んでいる。小屋の前には豊富に水が出ているので、ここで無料の水を補給した。この後は飯豊山を目指して徐々に登りとなり、御秘所の岩場を越えると山頂直下の急斜面となった。青空の下重い荷物にあえぎながら登り、汗びっしょりになって 10 時に本山小屋に着いた。小屋の前にはブロック造りの飯豊山神社の社殿があるが、山頂はもう少し先である。このころにはガスが上がってきて見晴らしが無くなってしまったが、なだらかな山頂付近の稜線を 20 分くらい歩いて 10 時 20 分についに飯豊山山頂（2,105m）に到着した。

誰もいない山頂に着くとあら不思議、それまでのガスがスーッと晴れて周りの山々が姿を現し出した。何度も来られる山ではないのでゆっくりしようと、靴を脱いでお湯を沸かしお茶を飲みながらあたりを見回す。北側は雲があるが他の方向は良く見えて、大日岳も良く見えている。憧れの飯豊山についに来た、良く来られたなあと感激に浸りながらくつろいでいると、単独行の若者がやって来た。お互いに写真を撮っていると徐々に人がやってきて、山頂はいくらかにぎやかになって来た。トンボの大群が飛び交う山頂で昼寝でもしようかと思ったが、直射日光が強すぎてのんびり寝ていられなかった。

たっぷり休んで、11 時 40 分に出発した。この先にある「大日岳」は飯豊連峰の最高峰で、飯豊山の南西に位置している。三角形で形の良い大日岳とそこに至るなだらかで長い稜線は、見ているだけでも楽しくなる飯豊の売り物の一つではないだろうか。ゆったりとした稜線は一面の笹原や草原となっており、花が多くなってくる。イイデリンドウやニッコウキスゲ、マツムシソウなどを楽しみながら 13 時 05 分に御西小屋に到着した。この小屋は

収容人数が少ないので混雑時は「サシミ」状態で寝てもらうこともある、とは小屋番の説明だが、本日は宿泊者が 6 人くらいでゆったり寝ることができた。

1 日（月）、朝の 3 時ころ外のトイレに行った人が「満天の星ですよ」と興奮気味に話しているので起こされた。それではと外に出てみると、文字通り満天の星であった。おまけに、新潟と会津平野の街の明かりが下に見えている。天の川など夜空一面の星空を堪能して小屋に戻ると、早くも大日岳目指してヘッドランプで出かける人がいる。こちらはのんびり支度をして、明るくなり出した 4 時 20 分に出発した。

起きたばかりで体は慣れていないが、荷物は小屋に置いてきたので快調に歩くことができる。緩やかな稜線を軽く下り、その後登っていくと先行した人が早くも降りてきた。山頂直下は急傾斜で空身でも多少きつかったが、5 時 30 分に大日岳山頂（2,128m）に着いた。狭い山頂はこれと言った特徴はないが、ここからの眺望は格別で新潟の街や佐渡島が大きく見えている。なるほど、飯豊山は新潟県との県境にある山なのだと、改めて実感した。会津磐梯山や日光の山も見えているし、北側の鳥海山なども良く見えた。飯豊山は太陽が山頂から出てきたところで逆光気味になっているのが残念である。大日岳は飯豊の主稜線から離れているし、百名山でもないので訪れる人は少ない。この時間に来る人もいないので、山頂を独占して眺望を楽しみ 6 時に下山した。小屋に戻る途中の道の両側は実に花が多い。往きは薄暗くて気が付かなかったが、ハクサンイチゲやハクサンコザクラの群落もある。花を見ながら戻ったのでやや時間がかかり、7 時 15 分に御西小屋に戻った。

大日岳往復のコースタイムは昭文社の地図では往復 3 時間 40 分となっているが、実際には 2 時間半程度で十分である。他のコースも荷物を背負ってもコースタイムと同じくらいかそれ以下の時間で歩くことができ、全体に甘いコースタイムとなっていた。

さて、小屋に戻って荷物を回収し、小屋番氏にあいさつして、7 時 30 分に先に進む。この先も高低差の少ない稜線歩きであるが、ますます花が多くなってくる。8 時 15 分に「天狗の庭」に着くと、缶ビールを 2 ケース背負った人が「どこまで行くの？」と訊いてきた。「梅花皮（カイラギ）小屋までです」と答えると、「ありがとうございます」とお礼を言われてしまった。実はこの人は梅花皮小屋の管理人で、ビールを御西小屋に届ける途中だったそうだ。先に着いたら 2 階に入っていていいよとお許しをもらったが、ついでに雨が降ったら洗濯物を取り込んでおいてくれ、と頼まれてしまった。

小屋番氏と別れて先に進むが、時間はたっぷりあるので花を見ながらのんびりと行く。行けば行くほど花の密度が濃くなるようでうれしくなってしまうが、お天気はいつの間にか青空が消えてガスが掛かり出した。直射日光はお肌に良くないし、これくらいの方が歩きやすいよと余裕をもって花を楽しむ。途中 2 か所ほど小さな雪渓を越えるが、特に危険なところはない。ところが、この雪渓で数日前に滑落事故があり死亡者が出たそうだ。普通に歩けば滑落などしたくてもできないような場所だが、事故はどこで起きるかわからないと、改めて気を引き締めたのであった。なお、今回念のため軽アイゼンを持ってきたが

出番は全くなかった。さて、ガスにより展望は無くなってきたが、それに反比例して（？）花が増えてきた。特に烏帽子岳手前の斜面はマツムシソウ、ニッコウキスゲ、ハクサンフウロ、イブキトラノオ、ハクサンシャジン、クルマユリ、等々いろんな花が一面に咲き乱れている。これこそ「お花畑」の名にふさわしいと感激したのであった。

結構きつい上りもあったはずだが、花を見るのに忙しくてあまり気にもならず烏帽子岳、梅花皮岳を越えて、11 時 30 分には梅花皮小屋に着いてしまった。あと 2 時間かけてもう一つ先の「門内小屋」まで行くと明日の行程が楽になるのだが、先ほど小屋番に約束してしまったので泊まることにする。まとわりつく雲が大分水分を含んでいるので、念のため洗濯物を取り込んでやった。小屋に入る前に近くの水場でたっぷりと水を補給したが、この水場はおいしい水が豊富に出ており、小屋からも近く大変便利な水場であった。誰もいない小屋の 2 階でゴロゴロしているとやがて小屋番が帰ってきて､宿泊客も到着し出した。定員 53 人だそうだがかなり広い小屋に、今日も宿泊者は 6-7 人であった。宿泊者同士で山の話をしていると意外と時間が早く過ぎて行った。

2 日（火）、今日のうちに弥平四郎まで降りるという人もいて、今朝も 3 時過ぎから小屋はうるさい。こちらも付き合って早起きしたので、4 時 50 分に小屋を出発した。他の人は皆南に向かって行き、北に行くのは私だけである。今日の天気はあまり芳しくなく、一面の霧に覆われており見晴らしは無い。出発早々小さなヌカ蚊の大群に襲われて、あっという間に何か所も食われてしまった。急いで防虫ネットで顔面を、長袖シャツで腕を保護したが、一日中着用し続けなければならなかった。

目の前の（と言っても霧の中だが）北股岳（2,025m）には 5 時 15 分に着いた。飯豊連峰北部の中心的な山で、見晴らしが素晴らしいはずだが今は全て真っ白である。それでも時折霧がスーッと晴れて山並みが全容を表す時がある。この先は徐々に高度を下げていくが、当然ながら幾つものピークを越えなくてはならない。展望はイマイチだが、道の両側の花は相変わらず続いている。薄い霧に覆われた草原の中に、イブキトラノオの長い花が無数に浮かび上がっている光景などはこの世のものとも思えない幻想的な風景である。

門内岳を下ると 6 時 20 分に門内小屋前を通過する。この先も幾つものピークを越えて 8 時 40 分「頼母木小屋」着いた。ここで水を分けてもらった際に、杁差（えぶりさし）小屋の水場の状況を確認したところ、良く出ているとのことで場所なども詳しく教えてもらった。この先 2 時間半くらい歩くので、荷物はなるべく軽くしたいと、1 リットルのみもらって出発した。この頃には霧が上がって前方の稜線が良く見えており、目指す杁差小屋が小さく見えている。なだらかとは言いながら、けっこう高い山を幾つも越えなくてはいけないので、コースタイム通りに歩けるか自信は無かったが進むしか無い。

大石山、鉾立山と大きなピークを越して杁差岳に登りつくと、目の前に可愛い小屋とその後ろに小さな山頂が現れた。11 時 20 分ついに杁差小屋に到着、出発から 7 時間近くかかってさすがに疲れた。この小屋は管理人がいない、本来の無人避難小屋である。小屋に

入ると誰もいないので、とりあえず荷物を置いて山頂を目指す。小屋から 5 分もかからずに杁差岳山頂（1,636m）に着いた、飯豊連峰の最北端についにやって来た。ガスがかかってきて遠方は見えないが、山頂の雰囲気を十分楽しみ小屋に戻った。

さて、靴を脱ぐ前に先ずは水の確保に行かなければならない。小屋の後ろから急な斜面を下る、ひたすら下る。小さな沢に沿って下るが沢に水は流れておらず、10 分くらい下って水場に着いたが水が無い！聞いた話ではここに地下からきれいな水が湧き出しているはずだが、水は溜まってはいるものの湧き出してはいない。水面には虫の死骸も浮いているし、あまり良い水とは思えないが手持ちの水がないのでやむを得ない。こんなことなら頼母木小屋から水を持って来ればよかったと後悔したが手遅れである。なるべくきれいそうなところを選んで 3ℓほど汲むことにした。水を汲んでから小屋に戻るため斜面を登り返すが時間がかかる。このころには青空が出てきて直射日光が暑くなり、で小屋にたどり着いたときには汗びっしょりになったが、往復で 30 分くらいかかってしまった。

小屋に帰って先ずは飲料水造りに取り掛かる。コーヒーのペーパーフィルターでゴミを濾し、煮沸させて消毒することにした。幸い溜まり水とはいえ、多少は流れていたものらしく味は悪くない。並行してお昼を食べていると、突然大雨が降り出した。水場に行ってからで良かったとは思ったものの、明日は大きな下りがあるのであまり降っても困る。大雨の中で外に出るわけにいかず、無人の小屋に 1 人でいるのは手持無沙汰であるが、何となく時間を過ごすのは嫌いではない。寝たり起きたり、ゴロゴロしているうちに夕方になると、雨が上がって青空になりきれいな夕焼けが現れた。

3 日（水）、1 人で寝たのでよく眠れたし、早起きしてうるさい人もいなかったが、外が明るくなり出した 4 時過ぎには自然に目が覚めた。朝食後荷物をまとめ小屋内を掃除して 6 時に出発した。花をかき分けて 5 分で登り着いた杁差山頂から最後の展望を楽しむ。今日の天気は雲があり快晴とはいかないがほとんどの山が見えている。やがて又も霧が下から上がって来たので名残は尽きないが 6 時 30 分、飯豊連峰に別れを告げて下山する。

下山コースは北に続く権内尾根を大石ダムまで 1,300mくらい一気に下らなければならない。目の前には多くのピークを連ねた尾根がどんどん高度を下げている。先ずはいくつかのピークの先に尖った山頂を見せている前杁差岳に 7 時 05 分に着いた。ここからは一気に 400mくらい急降下した後またも幾つものピークを越して行く。うんざりするほどピークを越えているうちに「千本峰」山頂に気が付かずに通過してしまった。

下るほどに天気が良くなり暑くなってくる。地図に「岩場」のマークがある場所も問題なく通過し、カモス峰（850mくらい）に 9 時 20 分に到着した。ここからまたも急降下が始まり、気持ちの良い広葉樹林帯の急斜面を沢目指して一気に下っていく。徐々に沢音が大きくなってくるが、なかなか沢にたどり着かない。足が大分疲れてきた 10 時 40 分にようやく 2 号橋にたどり着いた。深い谷に架かった橋を通るとき、下を見ると腰が抜けそう

なので急いで対岸に渡った。これで終わりと思ったら、ここから又も 1 山越さなければならなかったが、1 号橋を渡って 11 時 15 分に林道終点にたどり着いた。

ああ疲れた、この先は林道歩きだし楽勝だと思ったとたん、アブの大群が襲ってきた。何十匹ものアブが顔の周りを飛び交うので、手を振り回しながら走り出すがアブは付いてくる。慌てて防虫ネットをかぶり一息ついたが、服の上からも刺してくる。雨具を着こみ、手袋をしてやっと安心した。アブはしばらくは未練がましく付いてきたが間もなく姿を消したが、小さなヌカカのような虫はいつまでも付いてくるのであった。今日の下りは膝をかばってゆっくり下ったつもりだったが、コースタイム 5 時間 30 分のところを休憩時間込で 5 時間弱で降りてきた。林道歩きも楽勝と思ったが、これが長かったし、おまけに両足に大きなマメができて痛む。これは 5 日間濡れた靴を履きっぱなしだったので足の皮膚がふやけてしまった上に、一気に大きな下りで荷重がかかったためだと思われる。疲れた身体と痛む足で暑い林道をとぼとぼ歩き、12 時 37 分に東俣彫刻公園（ゲート）に着いた。

おりから大学生か高校生と思われる男 5 人のパーティがこれから山に向かおうとしていた。あいさつしたが、これが昨日の午前中に頼母木小屋の管理人と話して以降初めて会う人であった。このゲートからは道が良くなりタクシーが来てくれるのだが、残念なことに携帯の電波が届かない。公園のベンチで一休みした後またも痛む足をひきずって歩き、13 時 50 分大石ダム管理事務所に着いた。ここではうれしいことに携帯が通じ、10 分ほどでやって来たタクシーに乗り駅の近くの日帰り温泉「ゆーむ」に直行する（￥3,040）。この温泉は制限時間なしで 500 円という安い温泉だが、施設はきれいで空いていた。5 日分の汗と垢を落としてすっきりし、休憩室でゴロゴロする。なにせ乗ろうとしている JR 米坂線は 13 時の次は 17 時まで列車が来ないのだ。

16 時 30 分くらいまでのんびりし、歩いて 10 分くらいの越後下関駅に着いた。駅で切符を買おうとすると、ここは委託駅なので大人の休日切符は扱えないと言う。やむを得ず米沢まで普通の切符を買って、米沢駅で大人の休日切符を購入することにした。17 時 23 分発の 2 両編成ローカル線は新潟県から山形県に入り、田園地帯を走って米沢に着いた。1 時間近く待って新幹線に乗り 21 時 24 分に東京駅に着いた。代田橋から我が家に向かう途中又も雨が降り、最後まで雨具のお世話になった。

今回は念願の飯豊連峰を南北に完全縦走するという大企画を成功させて満足であった。お天気はやや残念だったが、肝心の飯豊山や大日岳は晴れていたので良しとしよう。飯豊山以降はとにかく花が多く、想定外の花に迎えられて大満足であった。山中 4 泊 5 日というゆとりのある行程であったので、無理なく歩くことができた。荷物とコースを調整すればまだ歩けそうだと自信を付けた山行でもあった。なお、両足の大きなマメは 3 日もするとすっかり痛みが無くなって、次の山行を待ちかねている。

（伊藤）

山頂にて

最高峰の大日岳

飯豊山を望む

御花畑